

# 第86期中間株主通信

2011.4.1 ▶ 2011.9.30

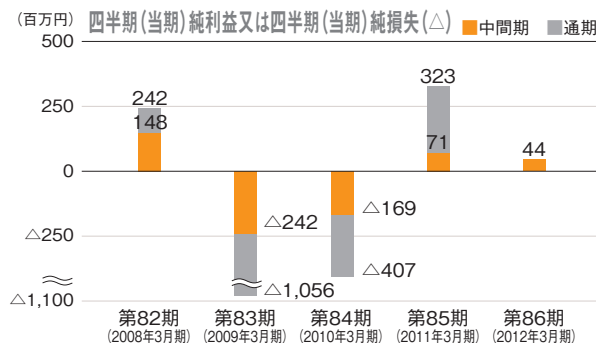
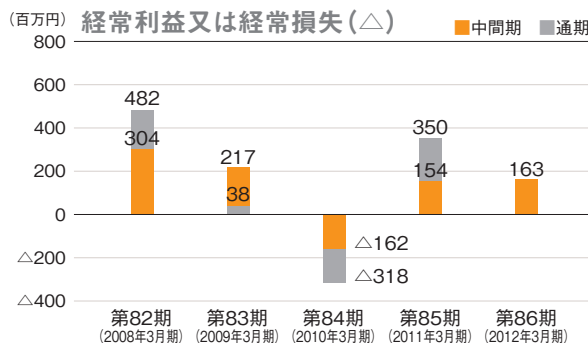
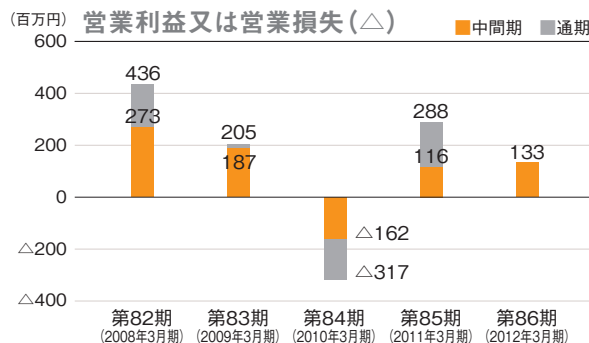
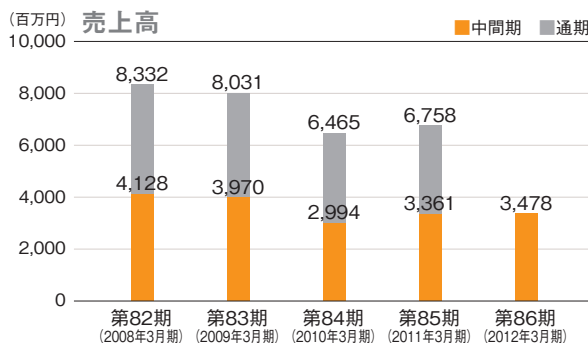


証券コード：6863

# 決算ハイライト

(単位：百万円)

		売上高	営業利益又は営業損失(△)	経常利益又は経常損失(△)	四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失(△)
第86期	中間	3,478	133	163	44
第85期	通期	6,758	288	350	323
	中間	3,361	116	154	71
第84期	通期	6,465	△317	△318	△407
	中間	2,994	△162	△162	△169
第83期	通期	8,031	205	38	△1,056
	中間	3,970	187	217	△242
第82期	通期	8,332	436	482	242
	中間	4,128	273	304	148



## 株主の皆様へ



代表取締役社長

川路 憲 一

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、平成23年9月30日をもって第86期上半期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の中間決算を行いましたので、株主の皆様にご理解いただくため事業の概況をとりまとめ、ご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国の経済は、3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害や電力不足により、企業活動は大きな影響を受け生産活動の停滞を余儀なくされましたが、復旧需要や被災した工場の早期操業再開等により回復の動きが力強くなってきました。しかし、他方では欧州発の金融情勢の混乱や欧米先進国経済の低迷に出口が見えず、輸出への依存の高い国内製造業では、懸念が大きくなってきています。

当社グループの主要取引先であります印刷業、紙加工業、電気部品メーカー、鉄鋼業及び化学工業等におきましても、震災による直接的な被害のほか、電力不足やサプライチェーンの寸断などにより工場の稼働率が低下し、中長期的な見通しがたてられない状況にあるため、設備投資には慎重な姿勢となりました。

このような状況において、当社グループは被災したお客様の復興支援に注力するとともに営業活動に努めました結果、当上半期の連結売上高は3,478百万円となりました。

また、前期に引続き経費の削減に努めた結果、営業利益133百万円、経常利益163百万円、四半期純利益44百万円となりました。

今期は東日本大震災による混乱状態からのスタートでしたが、上半期は当初の予想を超えた厳しい状況の中で、ほぼ計画通りの結果を残すことができました。しかし、これから年間計画でも比重の重い下半期の正念場を迎えます。前期には黒字復帰を果たしましたが、今期はその黒字を定着化させる所存で、「日本もニレコも復活する」、これに向けてさらなる努力を続けてまいります。

また、前号の株主通信では株主の皆様の当社へのご理解を深めていただくためのビジネスについての基本姿勢をご説明いたしました。今号では次のページで前号に続きビジネスを進めていく当社の体制について説明させていただきました。前号と合わせてご覧いただければ幸いです。

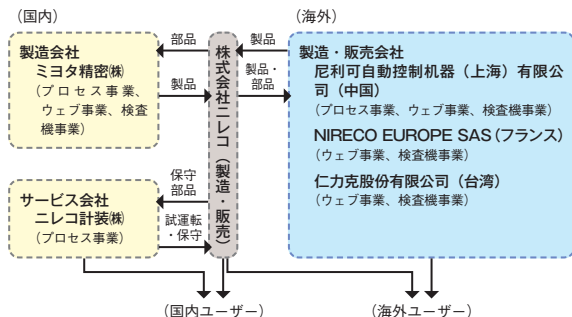
株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

# ニレコ ビジネスの構え

## ニレコ・グループの組織体制

ニレコ・グループは、下の図のように株式会社ニレコを核とした事業系統の体制を取っています。

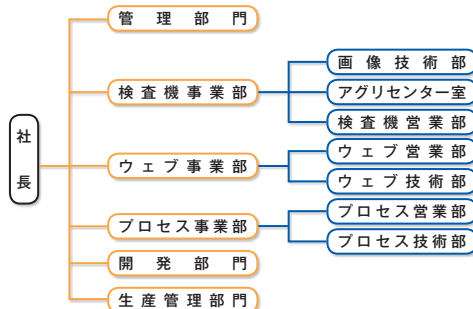


株式会社ニレコはグループの核であり、全事業の製品の製造、販売、開発を行っております。図の株式会社ニレコの向かって左側が国内の子会社、右側が海外の子会社です。このように左右に分けて表示したのは、子会社のスタンスが国内と海外とは異なっているためです。国内の子会社はニレコの業務の一部を分担しているという性格です。国内に対する営業はすべてニレコが行っております。そして、ニレコの製品は原則として国内で生産していますが、その大半はミヨタ精密で行っています。また、ニレコの鉄鋼関係のサービス部門が独立したニレコ計装はプロセス事業の製品の試運転やメンテナンスなどのサービス業務を担当しています。これに対して海外の子会社の場合は地域の拠点として、事業を伸ばして行くため、ある程度の独立性をもって事業を進めています。例えば仁力克(台湾)は一部の製品を現地でライセンス生産していますが、その経緯は地域で製品の受注を伸ばして行くために、地域ユーザーのニーズや競合の価格の状況などから、現地で判断し始めたことです。これは、現地の企業を買収したという経緯にも由来し、経営トップはニレコの経営陣が就任していますが、それ以外は現地の人間が事業運営に当たっています。NIRECO EUROPEも同じようにフランスにあって欧州の印刷関係に向けての製品を販売しています。欧州では環境にやさしいフレキソ印刷が盛んになってきたため、グラビア印刷向けの当社の制御装置を欧州向けに手直ししています。そして尼利可自動控制机器(上海)は上海において設立した子会社です。当初は中国で低コストで生産し日本国内でも販売しようとしたのですが、輸送コストや品質面から中国現地やアジア地区への生産及び営業拠点に重心が移りました。NC旋盤等の工作機械を備え機械加工が可能のため自動識別印字装置のようなプロセス事業の製品の製作もで

きるようになり、ウェブ事業の製品では仁力克(台湾)が電気配線やアSEMBリー組立を行うので、上海と台湾との間で得意分野を生かした協業関係が出来上がりつつあります。これをまとめたのが、下の表です。

名称	所在地	事業内容
ニレコ計装株式会社	東京都江東区	プロセス事業製品の試運転・計装工事及びアフターサービス
ミヨタ精密株式会社	神奈川県相模原市	プロセス事業、ウェブ事業及び検査機事業製品の加工、組立及び配線
NIRECO EUROPE SAS	TRAPPES, FRANCE	ウェブ事業製品の販売及びサービス
仁力克股份有限公司	台湾 台北県土城市	ウェブ事業関連製品のアジア地区における製造及び販売
尼利可自動控制机器(上海)有限公司	中国 上海市	中国におけるプロセス事業、ウェブ事業及び検査機事業製品の製造及び販売

## ニレコの組織体制



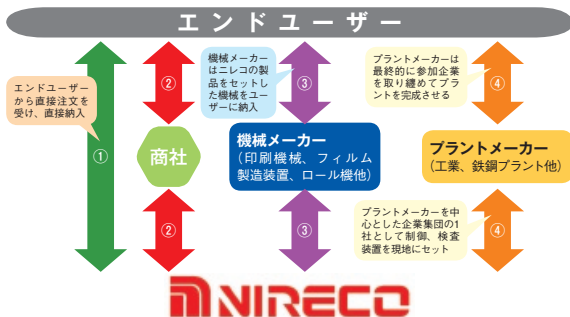
ニレコはグループの核として、全事業の製品の製造、販売、開発を行っております。プロセス、ウェブ、検査機の主要3事業については、それぞれが事業部として、その下に技術部と営業部(海外営業も含む)を持って、独立した権限と責任のもとで事業運営に当たっています。ニレコの業績は3事業の伸長にかかっているため、技術及び営業をまとめた総合的な戦略でそれぞれの事業が成長していくことが期待されています。このうち、技術部はそれぞれの事業の新製品の開発や既存の製品の改良、受注生産品の製作、修理やメンテナンスのようなサービスまで幅広い業務を行っています。技術部と営業部が同一事業部であることにより、ユーザーの情報やニーズの共有がよりスムーズになり、また、営業でも自らの意見が反映さ

れた製品の販売を責任を持って進めるといった体制になっています。

開発部門は基礎的な研究や新規事業に向けての開発を行っています。ここで各事業部では着手できない息の長い開発なども行っています。全社的な管理や生産工程、出荷関係は全体を統括した生産管理部門が担当しています。これは、それぞれの事業単一の出荷や生産規模により、全社でまとめて統括的に行った方が効率的であることと、牽制によるチェック機能が働くためです。実際の生産は子会社のミヨタ精密が担当していますが、生産管理部門と密接な連携により生産計画を緻密に立てて、在庫を最小限にとどめコストを抑える努力を続けています。事業部制では生産や管理部門も含めて各事業部が独立採算で事業運営をすることになっているのが一般的ですが、当社は事業規模の点や効率性、そして経営上の統制の観点から、管理部門と生産管理部門が全体を統括しています。

## ニレコの販売チャンネル

ニレコで製作している制御装置や計測・検査装置は工場の生産・加工ラインで使用されます。ニレコの製品がそこに届けられるまでには様々な経路があります。ここでは主なものとして次の4つの経路をご紹介します。



- ①直接販売：エンドユーザーから直接注文を受けて納入。
- ②商社、代理店経由：地方や海外にニレコの契約代理店があり、そこを経由して注文を受け、納入。なお、これらの代理店に対してはニレコが技術指導を行い修理やメンテナンスができる体制になっています。この経路による販売はウェブ事業の制御装置が中心です。
- ③機械メーカー経由：印刷機、スリッター、コーター、ロール機などの機械メーカーは自社製品の中にニレコの制御装置や検査装置を組み込んでエンドユーザーに販売することがあります。例えば、液晶パネルで必要になる高機能フィルムは、素材フィ

ルムに特殊な物質を塗布（コーティング）して生産されますが、その工程で決まった位置にズレずにムラなく塗布が施されるために、ニレコの制御装置がコーターと呼ばれる塗布装置にセットされます。この場合、この機械メーカーの製品が売れば、組み込まれたニレコ製品も一緒に売れることになるので、標準装備されることが売上増につながります。この経路による販売はウェブ事業の制御装置や検査装置が中心となっています。

- ④プラントメーカー経由：海外で鉄鋼のラインを新規に作る場合には、プラントメーカーが一括受注して、必要な製品（ニレコの制御装置や他社製品）を組み込んで完成品として納入するケースもあります。例えば、自動車のボディーで使う薄板の生産ラインをプラントメーカーが受注すれば、圧延装置や加熱炉といった製造装置をそれぞれの専門メーカーが分担し、そこで圧延装置による加工処理がきちんと行われるための制御装置をニレコが分担して、それらをひとつに組み上げ、大きな生産ラインとして最終的に完成することになるのです。この場合、エンドユーザーは海外ですが、形式的にはプラントメーカーに納入するため為替リスクを避けることができます。

このような経路で受けた注文に対して、ニレコの側で対応するバターンがあります。その主な場合を下にあげます。

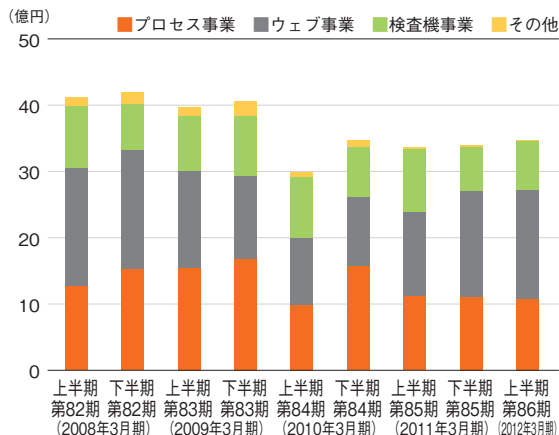
- (a) 受注生産品：言うならばオーダーメイドで、ユーザーからの注文に応じて、設計し製作するもので、プロセス事業の一部製品や開発を伴う特殊な注文の場合です。この場合、注文を受けてから製作するのでリードタイムが長くなります。
- (b) 標準生産品：標準的な設計でロット生産し、ユーザーからの注文に応じて出荷するもので、いわばレディーメイドです。しかし、ユーザーの事情に合わせたカスタマイズが施される場合も多く、中にはカスタマイズの規模が大きくイージーオーダーのようなケースもあります。
- (c) サービス：修理やメンテナンスといったユーザーからのリクエストに対応し、担当者がユーザーを訪問し役務を提供するケース、あるいは交換部品などを出荷するケースです。

# 当中間期の業績と通期業績の見通し

## セグメント別の概況

【ウェブ事業が前年同期を上回り、検査機事業は前年同期並み、プロセス事業部は苦戦するも当初の計画に沿った結果】

### 事業別売上高推移



## ウェブ事業

### 2012年3月期中間期の事業状況

【高機能フィルムの活発な設備投資が続き、耳端位置制御装置の売上が好調、さらに糊付け装置が伸長】

ウェブ事業の主要取引先である高機能フィルム業界の今期における状況は、液晶パネル向けの停滞をタッチパネル向けの好調が補い、全体として設備投資は旺盛な状態が続いています。液晶パネルが世界的に供給過剰で国内のパネルメーカーは生産調整だけにとどまらず組織再編にまで踏み込んだ事業の見直しを行っています。一方、スマートフォンやタブレット端末は増産が続いており、高機能フィルム業界でも生産の重点をタッチパネル向けにシフトさせております。ただし、東日本大震災による電子部品サプライチェーンの混乱の影響により、設備投資は当初に期待したほどは伸びず、ある一定レベルにとどまりました。

前号の株主通信においてウェブ事業の今期の展望で説明しましたように、新製品のPRや製造装置メーカーへの売り込みに注力する一方で、電



グルーモニターGM660

気自動車向け等の車載用大型電池関係に積極的な売り込みをかけました。海外に対しては、機械メーカーを中心として安定した販売先の開拓を進め、上海、台湾の子会社が協力した生産及び販売活動を行うなど、受注拡大を目指しました。これにより、フィルム向けの耳端位置制御装置や張力制御装置の需要を掘り起こしつつ、アジア向けの伸長もあって前年同期に比べ売上を伸ばすことができました。

また、印刷関係の国内での設備投資は低調が続き、検査装置との統合による製品開発を進めています。

これらの結果、ウェブ事業の売上は1,656百万円（前年同期比109.9%）、セグメント利益196百万円（前年同期比151.8%）となりました。

### 通期業績の見通し

【高機能フィルム業界の設備投資は持続するも、海外への設備投資と競争激化が進展するため、新市場開拓で実績アップ】

今後の通期見通しについては、スマートフォンが今期前半の震災による生産の遅れを取り戻し、iPhone4s等の販売開始と相俟って、後半の生産量が大きく伸びることが予想されるため、設備投資は活発化するものと考えられます。しかし、円高による海外メーカーとの競合場面が増え、価格競争が熾烈化するものと考えられます。また、車載用電池は量産の本格化に伴い、ユーザー各社が低コストのアジア生産を強化していることや、コスト意識の高い自動車メーカーが主導していることから価格引き下げの圧力が強まるものと予想されます。

このような状況の中で、ユーザーに対する提案やきめ細かなサービスにより信頼感を高める一方で、新たな状況に応じた新型ライトガイドの開発に注力していきます。また海外では、中国、台湾、韓国に重点を置いて、子会社との連携を緊密化し、受注拡大を目指します。

また、印刷関係の製品の取り扱いを統合し、検査装置の技術を応用した糊付け装置グルーモニターの受注が好調なため、今後も重点的な販売活動を続けていきます。

## 検査機事業

### 2012年3月期中間期の事業状況

【無地検査装置は前年同期を上回り、農業向け検査装置は堅調】

検査機事業の主要製品である無地検査装置は、主なユーザーである液晶などの電子機器向け部材関係がスマートフォンをはじめとした中小型パネルが、震災による一時的な落ち込みから、生産を回復させ下半期に向けて増産体制に入ろうとしたことから、検査ラインの設備ニーズが高いまま推移しました。その中で、前号の株主通信の展望で説明しましたように、昨春秋以降に組織変更により取扱製品を無地検査装置に絞り込んだ集中的な営業活動を行うことがで

きたため、他社のシェア奪取も含めて受注高を伸ばしました。また、タッチパネル向けでは競争力アップを図り次世代の無地検査装置の開発を順調に進行させてきました。

一方、リチウムイオン二次電池向け電極シート検査装置は、電池の本格的な生産体制に向けて現場での試行段階のため引き合いから受注に至る期間が長期化していますが、海外メーカーの受注も獲得するなど徐々に地歩を固め、今後本格化する大型

電池の量産体制への対応準備を進めました。さらに、膜厚計測等の用途でユーザーに浸透し始めてきた分光計測装置は、無地検査装置等とのセットによる営業活動の効果もあり、受注獲得数が徐々に伸びてきました。

そして、もう一つの主要製品である農業向けの選果ラインの検査装置は昨年未に成立した補正予算の実行を追い風に、生傷腐敗センサに改良を加えた有利さを發揮して、みかん選果場などの大型案件を着実に受注しました。

これらの結果、検査機事業の売上は727百万円（前年同期比102.6%）、セグメント利益131百万円（前年同期比87.8%）となりました。

## 通期業績の見通し

### 【無地検査装置の受注拡大と農業向け検査装置で業績アップ】

中小型パネルを中心とした電子機器向け部材関係の検査ラインは、昨年より主要取引先の設備投資が再開しましたが、今後に向けて徐々に設備をさらに増強していくものと予想されます。特に、タッチパネル検査におけるさらなる機能と精度の要求に応えるための次世代の無地検査装置の開発を進め早期投入を目指します。また、この開発中の次世代無地検査装置をベースに電極シート検査装置の大幅な機能向上を図ります。

また、農業関係は農業補助金予算の行方が不透明という懸念材料はありますが、現場での設備投資意欲は高いため、生傷腐敗センサの能力アップとともに落葉果樹へと利用対象を広げ、大型案件での受注獲得を図りPR活動と情報収集に努めます。

## プロセス事業

### 2012年3月期中間期の事業状況

### 【震災の被害と設備投資の海外シフトによる厳しい受注環境により苦戦】

プロセス事業における主要取引先である国内鉄鋼業界は、一部の製鉄所が被災し、一時はサプライチェーン分断等により自動車等の



クリーンルームでの無地検査装置の製作

製造業向け鋼板の需要が落ち込み、電力供給の混乱により製鉄所の稼働率が大幅に低下しました。しかし、製造業や流通を中心とした震災からの復旧が急ピッチで進み鉄鋼生産量は8月を過ぎると回復に向かいました。しかし、国内鉄鋼大手各社は、震災を機に国内生産のリスクや国内市場の限界性が露わになったことから、従来進めてきた海外重視の戦略をさらに推し進めることとなりました。そのため、設備投資については、国内の被災した製鉄所の復旧に注力する一方で、災害リスクや国内鉄鋼需要の停滞に先行き不透明な状況となっていることから、既存設備の維持、部分的改良にとどめ、海外向けの圧延ライン新設や高炉建設といった大型プラントの推進等の国外向け投資への傾斜が加速しました。当社グループが期待していた自動識別印字装置の需要も停滞の兆候を見せ、新規設備案件の受注には苦戦が続きました。このような中で、欧州において渦流式溶鋼レベル計の販売を開始し、差別化に向けた製品開発を進めました。実績面では、被災施設の復旧に関連した予備品・部品や修理等の売上があり、国内外で新規設備案件がわずかとされている中で設備の部分的改良などの中小規模の案件をこまめに掘り起しを行いました結果、売上高1,079百万円（前年同期比95.7%）、セグメント利益46百万円（前年同期比48.2%）となりました。



連続鑄造機での渦流式溶鋼レベル計

## 通期業績の見通し

### 【国内はサービス等で確実な受注、新規案件は海外市場での厳しい競争から】

プロセス事業の主要取引先である国内鉄鋼業界は、国内製造業の復旧に伴い、鉄鋼生産量を回復させてきました。しかし、東北地方で被災した製鉄所の復旧に注力していることや、海外プラントを継続強化してきていることなどから、国内での新規設備投資は休止状態が続くものと予想されます。一方、海外では、中国、台湾等で将来に向けた設備計画が始動する兆候があり、日本のプラントメーカー等が活動を活性化させています。そのため、当社グループも情報収集に努め差別化のための新製品開発を急ぎます。また、今期より開始した欧州での活動についても好材料が出てきており、活動を進めます。しかし、国内においては厳しい状況が続き、サービス活動や設備の部分的改造等のニーズを確実に掘り起し受注獲得を進めます。

# 連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科 目	第86期第2四半期 平成23年 9 月30日現在		第85期 平成23年 3 月31日現在		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	増減率
現金及び預金	3,271,353	28.3%	3,419,516	30.2%	△148,163	△4.3%
受取手形及び売掛金	2,534,334	21.9%	2,584,280	22.8%	△49,946	△1.9%
有価証券	142,774	1.2%	163,634	1.4%	△20,859	△12.7%
棚卸資産	2,322,983	20.1%	1,971,388	17.4%	351,594	17.8%
その他流動資産	461,722	4.0%	312,813	2.8%	148,909	47.6%
流動資産計	<b>8,733,168</b>	<b>75.6%</b>	<b>8,451,633</b>	<b>74.6%</b>	<b>281,534</b>	<b>3.3%</b>
有形固定資産	1,299,121	11.2%	1,318,180	11.6%	△19,059	△1.4%
無形固定資産	67,932	0.6%	81,927	0.7%	△13,995	△17.1%
投資その他の資産	1,457,903	12.6%	1,475,056	13.0%	△17,152	△1.2%
固定資産計	<b>2,824,957</b>	<b>24.4%</b>	<b>2,875,164</b>	<b>25.4%</b>	<b>△50,207</b>	<b>△1.7%</b>
資産合計	<b>11,558,126</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,326,798</b>	<b>100.0%</b>	<b>231,327</b>	<b>2.0%</b>
支払手形及び買掛金	482,716	4.2%	359,158	3.2%	123,557	34.4%
その他流動負債	785,197	6.8%	643,214	5.7%	141,982	22.1%
流動負債計	<b>1,267,913</b>	<b>11.0%</b>	<b>1,002,373</b>	<b>8.8%</b>	<b>265,540</b>	<b>26.5%</b>
固定負債計	115,005	1.0%	130,283	1.2%	△15,277	△11.7%
負債合計	<b>1,382,918</b>	<b>12.0%</b>	<b>1,132,656</b>	<b>10.0%</b>	<b>250,262</b>	<b>22.1%</b>
純資産合計	<b>10,175,207</b>	<b>88.0%</b>	<b>10,194,142</b>	<b>90.0%</b>	<b>△18,934</b>	<b>△0.2%</b>
負債純資産合計	<b>11,558,126</b>	<b>100.0%</b>	<b>11,326,798</b>	<b>100.0%</b>	<b>231,327</b>	<b>2.0%</b>

## 強い財務基盤が経営の安定性を支えている

ニレコ・グループは工業用計測・検査機器及び制御機器のメーカーとして、様々な製品や素材の生産・加工ラインから注文を受け、それぞれのラインの要請に応じた仕様の機器を納入しています。とくにプロセス事業や検査機事業の場合、顧客から注文を受けてから設計、製作、据え付け、試運転、検収という手順を踏んで売上が計上し、さらに資金を回収するために数ヶ月から1年という長い時間がかかります。その間の製作費をはじめとした事業資金を確保しておかねばなりません。また、ウェブ事業はリードタイムは短いですが、景気変動の影響を受けやすいリスクを常に抱えています。これらの理由から借入金に頼ることは避け、営業活動その他で得た内部留保を常に一定水準の現預金としてプールしています。



# 連結財務諸表と参考データ（受注・売上の状況）

## 第2四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	第86期第2四半期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		第85期第2四半期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日		増減		第85期（参考） 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率	金額	売上高比率
売上高	3,478,823	100.0%	3,361,633	100.0%	117,189	3.5%	6,758,607	100.0%
売上総利益	1,171,116	33.7%	1,111,091	33.1%	60,024	5.4%	2,268,077	33.6%
販売費及び一般管理費	1,037,255	29.8%	994,570	29.6%	42,684	4.3%	1,979,498	29.3%
営業利益	133,861	3.8%	116,521	3.5%	17,340	14.9%	288,579	4.3%
経常利益	163,417	4.7%	154,430	4.6%	8,986	5.8%	350,824	5.2%
四半期（当期）純利益	44,234	1.3%	71,801	2.1%	△27,566	△38.4%	323,608	4.8%

## （参考データ）

### 第2四半期事業別売上の状況

（単位：千円）

科目	第86期第2四半期 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		第85期第2四半期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日		増減		第85期（参考） 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比
ウェブ事業	1,656,752	47.6%	1,507,825	44.9%	148,927	9.9%	2,856,516	42.3%
検査機事業	727,506	20.9%	709,177	21.1%	18,329	2.6%	1,629,177	24.1%
プロセス事業	1,079,171	31.0%	1,127,495	33.5%	△48,324	△4.3%	2,237,847	33.1%
その他	15,394	0.4%	17,136	0.5%	△1,742	△10.1%	35,067	0.5%
合計	3,478,823	100.0%	3,361,633	100.0%	117,189	3.5%	6,758,607	100.0%

（注）第85期よりセグメントが一部変更となっています。

### 連結財務諸表 今期のポイント

- 受取手形及び売掛金  
3月の売上が多かったため一時的に売掛金が膨らみましたが、その後の回収を進めることにより減少しました。
- 棚卸資産  
ウェブ事業の受注が好調なため短納期の注文に対応するための仕掛品が増えているのと、受注が売上より伸びているため製中で出荷に至っていない在庫が増えているためです。
- 営業利益  
震災や電力不足への対策等で販売費及び一般管理費が増えましたが、売上高が伸びたこと、特に利益率の高い製品の売上が伸びたことや、生産やサービスを担当する子会社のコストダウン努力などによるものです。

# トピックス

## 新製品紹介

### 生傷腐敗センサ

農業向けの青果物検査装置は写真のような農産物の選果場で、収穫され集荷された農産物の形・大きさ・色合い等の外観や糖度・酸度といった品質によって選別しています。

みかんのような柑橘類は果皮に傷があると傷みから腐ってしまいます。段ボールでみかんを買うと下の方で傷んでしまっているみかんを見ることがあります。この生傷腐敗センサは、これを事前に選別するものです。



果皮の傷は外観からは発見しにくいものですが、果皮は傷つくと油胞が破れてフラボノイドという成分が表面に漏れ出します。このフラボノイドを特定の波長の光を照射することで検出するのが、生傷腐敗センサです。写真のようにライン上に、上下2方向から光を照射し、生傷を検出します。このセンサを通すと、下の例のような肉眼では分らないような生傷が浮かび上がります。



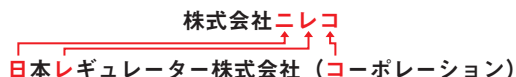
このセンサの導入により腐敗みかんの混入が減って、段ボール詰めのみかんも傷んだものが出荷されなくなるため、各みかん農家は、品質確保のために競って導入を進めるようになっていきます。

## 「ニレコ」社名の由来

### 株主の皆様からのご質問に答えて

「第85期株主通信」でご意見やご要望の連絡先を明らかにしたところ、次のような質問をいただきました。

Q:「株式会社ニレコ」という社名は耳慣れないのですが、どういう意味があるのでしょうか？



A: 株式会社ニレコの設立当初は日本レギュレーター株式会社という社名でした。1983年、業務内容が鉄鋼から印刷、フィルムをはじめとして幅広くなり、「レギュレーター」の呼称が実態と必ずしも一致しなくなってきたことから、日本レギュレーター株式会社のそれぞれの頭をとってニレコという社名に改めました。



ニレコのロゴマークは、頭文字がNの会社が沢山ある（日本やNEWから始まる社名は多い）ので特徴付けしにくい中で、あえて“n”をデザインしたものです。左下の四角は“機械”を、中の太い縦線の流れから細い横線の流れに連なる部分は“流体”を、外側のカーブ軌道を持った細い線は“電子”を表し、電子が機械と流体をまとめてシステム化しているのを示します。

また、別の意味合いで、歴史的に見て左下の角に“油圧”をベースにして、流れのある“空気”を重ね、これを“電気”で抱合せてシステム化し、かつ電気円で円状の輪（和）で一体となって発展して行くという意味も込められています。

今回のご質問のように株主の皆様からのお問い合わせやご意見ご要望をお待ちしています。株主通信のご感想などありましたら下記のアドレスまでメールでお寄せください。

[info-ir@nireco.co.jp](mailto:info-ir@nireco.co.jp)

# 株式の状況

## 株式の状況 (平成23年9月30日現在)

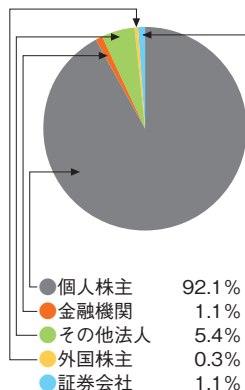
発行可能株式数： 39,400,000株  
 発行済株式の総数： 9,205,249株  
 株主数： 1,054名  
 大株主：

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
みずほ信託銀行株退職給付信託(新日本製鐵退職金口)	790	10.8
(株)東京機械製作所	554	7.6
極東貿易(株)	469	6.4
ニレコ取引先持株会	458	6.2
(株)博進企画印刷	372	5.1
(株)東京都民銀行	364	5.0
(株)みずほ銀行	364	5.0

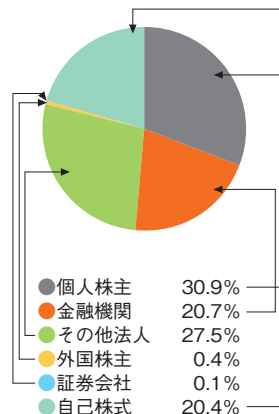
(注) 上記以外に、当社は自己株式1,881,746株を保有しております。なお、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況

### ●株主数



### ●保有株式数



# 会社情報

## 会社の概要 (平成23年9月30日現在)

商号：株式会社ニレコ  
 英文商号：NIRECO CORPORATION  
 本店所在地：東京都八王子市石川町2951番地4  
 設立：昭和25年11月  
 資本金：3,072,352,740円  
 従業員数：245名

## 役員 (平成23年9月30日現在)

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役社長執行役員	川路 憲一	CEO
取締役兼執行役員	岩間 篤	開発部門長
同	福田 正之	プロセス事業部長
同	長塚 寛	管理部門長兼生産管理部門長
常勤監査役	新居 力男	
監査役	林 光彦	
同	古 君 修	

※執行役員  
 執行役員 河西 辰雄 ウェブ事業部長  
 同 田辺寛一郎 ニ利可自动控制機器(上海)有限公司董事長  
 同 藤原 利之 ミヨタ精密株式会社代表取締役社長

# 株式メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会開催時期 6月下旬  
 定時株主総会議決権行使株主確定日 3月31日  
 期末配当金受領株主確定日 3月31日  
 中間配当金受領株主確定日 9月30日  
 法定公告は次のURLに掲載しております。  
<http://www.nireco.jp/ir/index.html>

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

- 同事務取扱場所  
 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付及び電話照会先  
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

## 株主アンケートの結果について

前回お送りしました「第85期株主通信」でお願いしましたアンケートへの協力、ありがとうございました。ここで、その結果の一部をご報告いたします。アンケートの有効回答数は41件で、回答率は3.5%になりました。今回のアンケート結果は、前回と変化が見られます。とくに当社に対して重視されることとして、「将来性」や「収益性」が前回に比べて大幅に増えています。このことは、当社の事業について今後の可能性を評価していただけていることの表われと、たいへん光栄に思うと同時にこれからの事業の展開に、改めて大きな責任を感じた次第です。また、事業報告書について、「読みやすい」の割合が減っています。当社といたしましては、前回の第85期株主通信は内容のいっそうの充実に努めたとの自負がありましたので、たいへん残念な結果でありました。株主の皆様には会社や事業について理解を深めていただきたいと限られた紙面に情報をつめ込みすぎたかもしれません。こういう点を参考に、今後の活動に生かしてまいります。

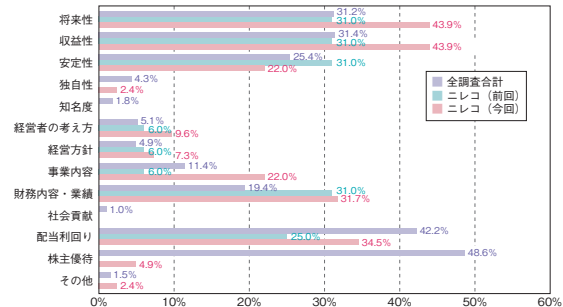
また、アンケートの中でご要望のありましたメールマガジンによる情報提供を検討しておりますが、試験的にFacebookでのコミュニケーションを試みています。

<http://facebook.com/yasuo.katayama>

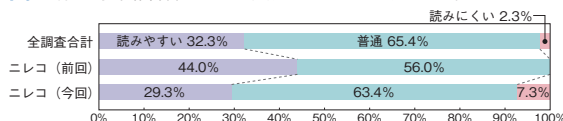
でご覧いただけますが、予めFacebookへの登録が必要となります。

すべての結果については、後日ホームページに掲載する予定です。

**問.** あなたが当社の株式に対する方針を決定する際、特に重視するものをお知らせください。(3つまで)



**問.** 当社の事業報告書について、読みやすさはどうですか。



## 株式会社ニレコ

〒192-8522 東京都八王子市石川町2951番地4  
電話 042-642-3111 (代表)

株主さま向け  
アンケート

## 株主の皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6863

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

